中村俊定文庫
文庫 18
808

影法師て家をわり下流に
流をあふ所に舟耳雲のさゝえハ
ちゝ其侍の方初中とゝ水月の姿
形をゆゝ其所に降日を重り
所に彼ゝむゝうさをさゝを千年わ
六ゝをゝと野の学ゝの桃花の姿
世法かゝをて七ゝ掬とゝて

中村俊定文庫

暑之部

鳳臺　孔周　梅園　卓池（ミカハ）　布席（松ヤ）　和潮　至焉　蓼朝

三日月を[illegible]奴残雪　一夢
[illegible]陽[illegible]華表[illegible]　鳧有
きの[illegible]は[illegible]　臥鵬（ナニハ）
養民父入の秋の[illegible]脇の[illegible]　古翠（テハ）
[illegible]の[illegible]　狸川
[illegible]小田の野　武貫
何[illegible]　菱亭（フンコ）
[illegible]心　里祐
[illegible]　芝洞

芦[illegible]の毛[illegible]の野の叢　大巣
[illegible]ハ[illegible]る位の来　楚橋
[illegible]へも[illegible]　洲畝
いなのめ天蓼[illegible]　桐堂（エナコ）
[illegible]　斗九
[illegible]の[illegible]　玄駐（アキ）
書の[illegible]の[illegible]　千草
[illegible]　遊亀
[illegible]　蘭甫

ひいやりと小神をうつる花ゑんふ　阿進

夕雲を神一ぺいてさく猫うめ　如水

子をおいて京ゆかるるのいそしき　巴涼

あなたも酒うしー庵の行き宗　洲路

又ちらも猫又やとかひ汁を（ムツ）　曰人

京の中よりの目鼻や長楽寺（アフミ）　宇洋

きはしの顔おありくまるんれ（テハ）　宇喬

それ中の一日をうそや花七日　路右

おちれけせよよう猫ちう毒ゑぶ　東宇

花ちるやそやけかるる協味のいと（ノト）　露蕉

とんてをさうてんあさ花の枝　梅二

絲う女もまるはいはのうろふ　文二

又ゑ一よ寿て猫はゑの鼠ふけう　爐角

株のけのすてゑはさくらぶ　巨春

ひらくゑの上ふくさくらんを（シナヌ）　松國

句猫ゑく自由まるはや花の身（行脚）　西月

毒のの一や音ういあ弐の上（イセ）　天口

拠ゑついて二毒ゑんうーらあを（アハ）　鷗里

[illegible]の[illegible]る除生乱　之柏
人るついて来る[illegible]や汐干のむし鳥　蘭太
その海ていかうる[illegible]　須磨の汐干潟　露渓
[illegible]をくるくるくんてかけす新しく新　里桃
夕月や明日のする二月の[illegible]　世竹
[illegible]鄭留笛[illegible]て孫う[illegible]れ潰　きく女
蛤のうちも[illegible]ハ除生山　梅山
[illegible]る菜の[illegible]除ま仍うけり　蕉鹿
[illegible]て[illegible]の水　鶏水

夏之部

[illegible]れ出来てあらもかえ　華九（ワカサ）
[illegible]ますく出良の竹　省吾（イセ）
縄の[illegible]を振てる[illegible]　雪雄（ユキオ）
[illegible]や[illegible]の[illegible]　沙鷗
[illegible]書あらしき[illegible]　呉山
[illegible]の上[illegible]俄　水　鹿有
[illegible]ハ新茶の[illegible]　羽休
[illegible]の[illegible]　巴由

曉方木の葉や槌乃音を待ち　棠棣

蟬の聲のたゝれて雲の峰　仝

野路乃あふちもあらぬ遊び毫　其白

夕霧ちらぬ夜の一しみる門の水　青雨

家建るはしめるや杜鵑　篤老（アキ）

蟬の声ゝ中ゆゝへの留る　香喬（ミノ）

郭の夏や出る所蓑も麦畑　得芝

散歩

むくゝとあゞ一ゝ折るゝ蕨　梅幹

あちらこちらあるはやゝ一ゝの家　庭雅

賀年てこるのたゝる田植郎　以貫

牡丹ゝ花の行やゝ二日月　吾柳

古ゝ一ゝ京ゝ寺の下あり　涼濤（イセ）

山の花ゝ一ゝ捨ゝ不言　佳當

我心ふのゝ際ゝ花せゝ拙ゝ子の毛　守村（ムツ）

花ゝ言あるかとけゝ一の表　北映（大坂）

ゝみ出ゝ一ゝ定めて修水鏡　卅尾

夏ゝ一ゝ我あ座の水ゝ日の膾ゝ年　古真

妙の云とうつ出てもきく秋の雲　花史

引てゝすゝ捨きれし池の舟　仝

厩あ穂のきゝやゝ小豆の月時　望年

新おもしくあ田植の中唐り　子襲

足あひてを水もてまめ桃　月庵

栗の朱れうしろすしき猿蓑ぶ　巨春

蕎麦も使きいまんくきのつか　巴流

夕すゝゝゝゝ蟲〳〵あ　千草

秋を〳〵苔も水よりあきる　野堂

涼しさやめを免んて孔雀の家　枇杷園

水新うかくこうけるタ月

すゝゝ

蓮盤とうもゝ寸夕顔孔雀

いつきもおゝゝすゝ月ゝすゝ蓮しきふ

蕎麦よ舟をよすゝ流つら

舟れなゝゝ浮子孔雀ふ

みゝゝ

きゝゝゝもけゝ市ゝ蚊句の鶏と

ゝゝめて紙てゝ

代間に句あり異代

本白ゝ蕎麦ゝのゝきゝ

嶺よりくく蘭の花孔雀
まつしくくくまつの葉孔雀の花
山路を一日ちとせ夕暮て
雪ふる槙の行里積時て
遠ひ来孔雀より雨の降
まさあくくくふり蓑の雪
降まくくくふり蓑の雪
二重の塔くくかし
什間三句あり畧す
神の雪孔雀はらひつく
（孔雀あり）
孔雀やくさのけふりくく

（中）
ちくほくくと（上）梅沢の宮のけまりて
八重霧八重孔雀を清水く
拾壹をけふもくれる雪
降くくくくと雪の時孔
書の風三人孔八雀もくひ
くくの風孔雀くくら孔佛もく梅
（雪）
什間二句あり畧す
孔雀の雪の雪
（うれ濡りする）
（煙の雪孔雀大井川
信濃日くくの多く三味線

寶方流の奇をよもあり

あるれたる人のうへなり社宇

事拙まゝなり勢の好はるゝ

ようなるか

此間古句あるに異し

うとゝと河白くさき蓋ところ

別し火孔池の雲をつゝふまり

酒くさき人のおて来るかんる

時雨うくあけの家ぬるさ

[illegible]

上ち

下ちゝ

此宵はあり異し

四日の時はしの製を結ハせる

[illegible]

[illegible]

恵心寺の縁の借書をふれ歩行

耳にあるとも書きもとなる

[illegible]

樹の枝乃梨表大雪

[illegible]

別の序うとゝ

[illegible]

象の日めしりなきをと治りけり

此間に句あり略す

御嶽山も手乃とくくほとど
山のうへつゑし
越る乃優まくく波のよをを来る
よし
かしこくも院者はるかまさしきし
さいかへし宿の詠めしと手折て
よし
花の孫生れ月ね度ろりけるを
花のさかりを惜もくハまれ
よし
蝶かるのをしへられさる意をして

ハまかすみりちかへ一句ハまきかあく
身をめきを讃への羽翔もふりけれ
久米路の橋の汝法ハまされかを
よし
流るさるり半空を来る小山伏
傘をかりをしてありふさしやと
あつりるをれ雨月れもしゐる
ますく
蕾のねのほしけありけるを
大ふよ　書き手迄
しく捷くて傘ハ手挿ひ
ますき竟角をにまひいく
よし

こゝまてまかれゆかり我も罷侍る

剣術の奉行職る井より縁辺の寿

此間句あり略す

いつかみ捨てゝの開する

世をうつくしき白川の実

大江より

小比丘尼乃奇詠られし教へく

自他いまも上まかるべし

卅首之句あり略す

天ゟし地八重し多き丈まて

自らしと其よし

其前し地きわう新内の玉丈まく

雲を脚まてて踏の香のよき実

恐ひしく絵様をは表紙

下略

藤原乃声湯釜の釘ゑきり

餅ゑかき謙まて年てやあみけ里

よし

迎ても七ら雨の路の来をそつ

あかし採そら手綱をうちかし

うき世を芸乃蓮をむし

下略

よし

身か出るしとて待ゝあり

此間に句あり略す

なるをとうとみて人々の色の毛
うしみまーーまよ念佛の義
よしく
月まて萩の露ふるまに東大寺
ゆかしくに
引て鹿に笹原三里の庵
甲斐人の孫みてゆかしき秋風
淡の角力とこゝにつれしう
蕉のまう窓さくをする影の蕉
鉢念佛まれ打ち
提て朱の蒲萄人のあつまりて
まさあるべし
廿間二句あり異に

蕉のまう窓さくを獨子
わかう来ものは付ーめハ梓神子
秋のすれう雀鳴
みをあらみく
かしこうにさかりの付るも郭
夕をとてうなるる里の犬
清つこく掃はきまれ
戸にの苔のうほむとう
海言あるる蕉の猪家のみちう

[illegible]

竹のうちらく　土筆　蒲ろ英

里の出[illegible]　牛見

此一巻ハ枇杷の葉の在世より白鶴主人

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

此人の[illegible]　[illegible]

或集より[illegible]

[illegible]

秋之部

打[illegible]の羽根もぬ[illegible]　竹有

男子のうふハ江[illegible]　旭松

初[illegible]　桃亭

[illegible]　雨塘（下ツサ）

[illegible]　公氷（大坂）

[illegible]　東宇

[illegible]　呉江

[illegible]　而石

樹よりて毋落つ寸きぬさうあ　呂川

袖さうに人さはいて紫紫紫　紫黒

海の月沙さるひろ孔て寺て寺孔　箕張

ちしさきさ部さ人さ孔や秋のさる　耕至

きさくしさよりさきけ一所の寺　子卧（エチコ）

孔ハ和ち一和き花の和ちしき　可生

時ちしハ伊とおるふ孔夜の屋　之信

孔孔や門田の巣山さまつ見ゆ　鉄船

井をかうは恩さ知らさ小菊さ　桃鳥

めれさの雪さうけて日おち除　黄山

岩を新よくさきふすきまり　杉長（業名）

ぬさうさ見やすーき猫国孔　東踞

巣の水を川てさるる月見郎　暁吾

孔の鹿井一の雀ちふれ月　太節（ロカ）

月をまる海や湖されこの味　一口（松前）

ふーて行男鹿も月のひるるる　士長

形流へて天徳をーきーさ小菊　芝洞

巣さうる孔て巣さ仏ひとりり　晩翠

雪の白しるや芝人家のふるのいろ　李風

白粉の香や色もまもら雀　松花女

八郎や新ものさきさき　松前　梅庭

あの人ゆゑあるあそこらの夢の花　竹冨

ひたしさ扑の落ちまやゝ下る葉　越後　霞江

扨風や山家よ入れて秋ぶれば　山光

海山も月まさきれ　みの郷　佳暁

陸奥やとうの扨たて馬ゝ蠅　金樵

あるとめ写水ふる氣しくるまぶ　雪居

さしさは撞くものも秋の夕郷ふる　清牛

陸奥やまもるは却せん唐ふし　仝

秋雨ふり降ふしあるる菊あれ　花守

住あるふ家しきけハ露庭　アハ　草史

我れ外のい鈴の外ちけものの序　越中　波子

つゝめはの降ふさしけ花芝　カヽ　楽子

陸ふ外ふ鈴ほ住けよ斗ほ　京　世南

稲妻まあふれてすさきお撲扇　来鵜

菊のあやされふ家ハ何まむ　伎臺

出絡ひもなくて楮に僧の身　之兮

女郎花侍らしき小松可離　ミノ 茶堂

戸口から起かけて行し底さらへ　昌来

勝角力負も勝すに重り斗也　信州 一茶

出かけの姿居に入るや浮の月　鳥川

くさしのこされし秋の内へるや　虎朗

登つるは花でも嵐を鐘の郎　牧子

子乃能ふくや芒乃秋一期　不轉

月を出しけるや勝めく庵の屋根　不轉

子供の我侭柿の木に雨　朱樹翁

烽燥の瀬を人渡る馬の旅しけよ　汝鷗

うだまず者の夕かし貴に手をきる　月底

人ま我中へひろる北しらきは　五道

野の棟を刈り松さきさまで　楪葉

姥うさて永のたうくすまふ翁
盃うつしく葬れり史 轉
せる糸桜てこうの山中よ宿うん 鹿野
妙とをうしき猿れらし鶯 鶴
百合の鐘ふを将とえてみて 轉
月うあうしいらふものもあ翁
十日程かうれよ寿の京 底
けつ雪をうちけりる掾さき 道
猫をうふ春すもくのわるさ翁 翁

首節みうくあ川ゥ 囀 鶴
ひうくゝ市城ようるあの京 道
家一さい使せ使ら変 鈍
確ね芸芝ひたうう書を捨て 跨
日々ありくと雨の京中 翁
盤傳をうて驚よのもけれ 拙
乗れうあうく呂時のはち 鶴
うあうあうさ鰹よ京をすううて 翁
月乗うくよ里季り寿 轉

[illegible]ら人よ鼻をるく　路

[illegible]の水減をはるしらせけと　苔

掘ゝうめ井の林れかしき頃　水

書をきつけふのわれい貝ちれ　路

揉木から雲れ涌出る建長寺　苔

若きもらひの[illegible]ゝ[illegible]ける　仝

遠ゝ芽の[illegible]ゝ[illegible]て　好

[illegible]の小枝よつける饅頭　路

ゆうしきた[illegible]ゝ[illegible]けなや　翁

[illegible]の中ゝ[illegible]人ゝ　轉

[illegible]成[illegible]とうゝゝ　路

[illegible]のは[illegible]　苔

什一巻ゝ[illegible]ひて甲斐ゝ[illegible]

けゝゝ[illegible]都星[illegible]ゝ世をゝ[illegible]れハ

[illegible]ゝ[illegible]奥の陸と[illegible]ゝ

ゝ[illegible]ゝ載ゝ[illegible]ゝ

ゝゝ[illegible]ゝ

[illegible]の小雨を賜の志[illegible]　春甫

挿のたゝ[illegible]　咲菊

我さゝ[illegible]　菊人

いろ[illegible]の本もわりる　如鶴

不用[illegible]　蕉雨（江戸）

秋の[illegible]　孤山

[illegible]　北冥（エヅ中）

夕挿ちを花の[illegible]　永世

月[illegible]　珂水

冬之部

枯枝[illegible]　陸僊

う[illegible]　一貫

[illegible]　馬草

仁の上や[illegible]山[illegible]　椿堂（イセ）

[illegible]　巴東

つ[illegible]の鼻柱　于谷

水[illegible]一夜二夜[illegible]　周湖

孤張てけ[illegible]火桶　五道

雲の山とかすみ雀つる　野渡（イセ）

雪折とかつぎも松の枝　琴左

上のゆまや雪ふり　加笛

日の出るとあかつき　桐火桶　月哉（ムツ）

山茶花や夕ぐれの白ふ　五芳（カヒ）

きりぎりす通ひぬ葦の叮鉦　晩翠

吹つれて月ふくゆるぐ葦　巴涼

本花の耳よ咲つくもるる　如水

梅園

桃亭

寿兼

曾洛

木天

箕洞（ミノ）

史千（ロチ）

對来

由磬

枯蘆のもとめぬ雪のあしうら

降るとおもふ枯葉ふぶき

沖ぶりや氷ふすぐる下駄の音

あらはるる波もすれる竜の雲

打ぬやしれの上の影の月

みちしるべとして入りぬる月

蒼茫人系費里乃人系そ

孤月ふてまるや暁の月

冬の日のさしてはゆるやぶ屋の軒　江戸　鶯笠

寒き夜ぞ月うらへ〻なる魚籠　茂東

海の藻の藻ぶ屑もまさりけり　可遊

しら〻ほのぼの明の鐘の音　白鶏

柳形の初潮へも明やすき　素風

年波の寄る波の接て舟まのもち　竹葉

烟めく窓もたゝさしまの中　其實

はら〻や持ぶうちはのあみる　紫扇

放下師の家も暮うる年の暮　左六

蓑ふるから屋流るやのさみ　沙鷗

竹ゐあてゝつれ水あらし　不轉

牛馬の一かたはたよ風ふる　呂川

孤て古屋を人のかゝる家　鳳臺

弾琴を長き夜の鐘の音　而石

扇をもつふるうちかゝれ　黄山

[illegible]　雪居
一度よ[illegible]れ　辨像　金蕉
[illegible]　左六
[illegible]　桃鳥
[illegible]　吳山
[illegible]　旭松
七夕[illegible]　我竟
[illegible]月乃[illegible]　紫黑
[illegible]　庭雅

[illegible]を焚く　和潮
[illegible]日　芝石
[illegible]　李風
[illegible]　兎有
[illegible]　晩翠
[illegible]　芝洞
[illegible]　由詹
[illegible]　轉
[illegible]　鷗

葉を一把拾て火の見孔嘉代と
藥種と紙帳とを塞ぐ　臺
青と黄とを切籠の京住居　川
多ふるを見よとれを粧　黄
けろ〳〵と蟲隠れて泣ゆる石　后
鶏てもゆく〳〵鶏を與の頃　蕉
世をうち孔の接觸の汐ゆめり　居
ちいふり鶏ら一日闇見ふく　鳥
不弛定お鶏ゆ答ず答て　六
　　松

心のあちら〳〵を負ひゆく　吳
ひこうはえをもてめ大木の毛さり　黒
祭地神をとる今のうち　竟

相言うめ人の影あり月　朴夫

一ふたゝび打ちもとゞまる星　志學

寒菊や茅ぶき門の門　杜光

晴や一ふたまぬ人の春　子温

移植の足ゆくやはつし乳　蒼乱（京）

古郡一の大あり陣子が　歸来

新月出て三保の雪　菊人

冴鶴れ夜を作つくさすさ郎　吐月

警蓑ぬつ仏ハ寒ハ　足考

逝来

花のたゝさは云ふ郎　保光

ひやく〳〵風のあはあり夜の宗　指月

松の花　ふく〳〵　鹿野

まゝるてはたゝろ石ま花は郎ば（エナコ）　石海

花ろめ寄きゝや都そり（弁シ）　湖山

桃れ雨山竹ちりけれ（カヒ）　歸嬰

竹もも花のはるよおゝきり　人之

投出て足さは山やく夜（サヌキ）　蘭舟

加茂川の水うみて春と田ふ――賣　碩馬

花さくや鶯さ――入まさ――み　民情

茶ゐ水やちるふハ雀のつきやう　秋良

白拍子のぼ――やひけりの夕揚り　二九

かくひ――と眼醫者の鷺や茨の芽　士由（ムツ）

人のあつさ件の妻さええすきめ　棋渓（ムツシ）

笠行のすへ足さて詩をくすめ　李東（イセ）

へ茶ゐ入めさて行ふ皐月雨　支左

孫もくこのあらう出さる日春　然石

部五時よりうきやの跡の花　楚雀（ミノ）

ぶつきて我田畑やや夏れ月　棋五

新部の氣のくさきあり茶ゐ　春人

初蛍田うち生きれて来さもの　松濤

みさの戸ゐ振ゐ水や蜂の赤　子祐

件のるやわくう蛍の通り節　秋舉（ミカハ）

ゐ線さくおすきすう拾うれ　聞笛（ミノ）

夏の月小田ゐ音ありむ――ろ堰　陸藏

から屋根と硯ろきめくさ　田口

涼しさ哉まばらや空の星の数　楚山

うつあけてゆうれぬ背戸や芥子咲ける　蒿居（フセン）

山の奥の拍子舞ふ人もなくふるさとの　六葉（コツ中）

やどりうつのすもや月のきつね狐の松　西坡（ブキ）

ちりぢりに捨れたうらしに　禾木（行脚）

雨ふる間くゝ時雨や坂和の素麺て　左海

拍子うち男ちらや三日孔雀　素竹

乙りちとさもも涼しき瓜の皮　廬汀

涼しさを芭蕉に或集の張れり

[illegible]の[illegible]の[illegible]西りの[illegible]　子山

[illegible]てやれ[illegible]　漱石

[illegible]　左流

日よりとうふの牡丹咲ふる　不轉

子をもる[illegible]　九山

外一原や一[illegible]　芝石

一ら掘や雨の雪の海を遠ふ　且糸（カ帥）

市人やもさま掘をれて　又輔（ミノ）

ふもの[illegible]　一静（サト）

亀悦
竹二
丈阿
竹堂
芦友
鳳雛
雪荷
太良
未鵜

雨耕
東峰
錦水
騏上
千萩（行脚）
都揚
沂游
琴笛
雪居（チク）

おく霧よめれてしかなる雲の奏　市岳

三日月の伊吹よりそれてかくれけん　仝

菊のあるを散らすきんのすゝみ面ぐ　風荷

仁和寺や御歌の題をお月面　李峰（トウフサ）

海辺くし山奥本くすしつゝ　桂九

きれ雲中の月をうゝ大樓　青桐

却しろれそ雪を膳鯛　我竟

いくつ女あるしや年の市　桂雅

埋火をかきもの星月夜　不轉

星時の浪よりほうく霧の郭　炽火

きつゝめ少や誰も言葉をはくし浮　童女

藝れ類ひろ〻ん花むくら　可笑

炉くゝ修や和とふくゝ　一舉

市中を雲の雲のうゝ帝理　自松（シナノ）

いちえの山人の郭うゝ木立　呂仙

山雀の聲ゝてえし柳ゞ　敬為

雲時の夕日たてこむ戸にゞ　藤架

實盛も鐙ゝの御後ゝ　太中

春をうらやましてうぐひすの八重の月　北潛

さんかうの春といふあるまれけるの　藤市

春をしむこころ一つにやどの除　芸士

まこと天の海へかうけるこの秋のそら　乾夫（エツ中）

世をぬけぬや一ふしふ一日ふかるる　諦丘

笠陽宮や水きけたりて童廻れ　良梅

はの乳よついて苟れや手の除　押淺

翌二日と降一夜まこハちれまの雪　士角

あるものを汁ひるおん冨士の山　羅川

之の春之俳の一條ハ大望

松樹千歳　記事多れハ

いまゝ時間差冠ら利

風雅を本とまこと根を

業ゆゑ事あるこ

の代よりう業ものとひけめる

まれの業ゆゑ拾て業

なつ雲のくるるを
業成すを
来るとつゆ
毒性性の
假名業
とる
なし

時之江戸の業を宇佐
老人の作
為替
清和年書

志のふくに

文政七甲申冬

不轉著

文政七甲申冬

尾陽

雞頭菴不轉輯

早川氏

愛知郡尾張國知多郡
岩高村一番地
三浦邦